



東映株式会社

2024年3月期 決算説明資料

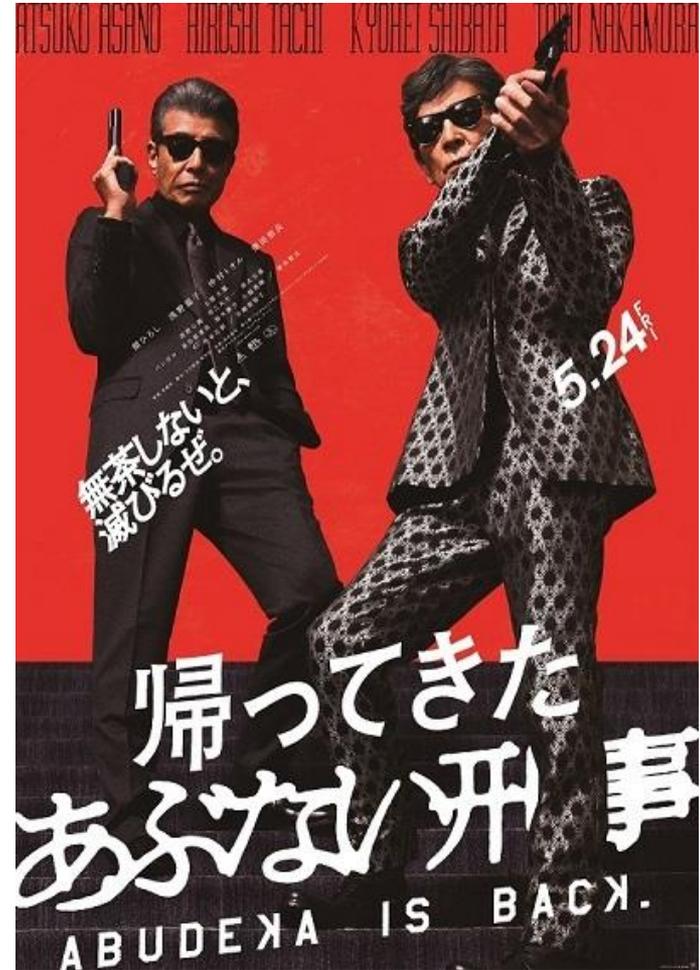
(2023/4~2024/3)



公式LINE【東映IR News】



公式X【東映公式ニュース】



2024年3月期決算（連結）

(百万円)	FY21	FY22	FY23	FY24	前期比較	
売上高	107,648	117,539	174,358	171,345	▲3,013	▲1.7%
売上原価	67,752	70,550	102,906	104,452	1,546	1.5%
販管費	26,898	29,178	35,113	37,550	2,437	6.9%
営業利益	12,997	17,810	36,339	29,342	▲6,996	▲19.3%
経常利益	18,716	23,303	40,172	35,317	▲4,855	▲12.1%
親会社に帰属する 四半期純利益	7,284	8,977	15,025	13,971	▲1,053	▲7.0%

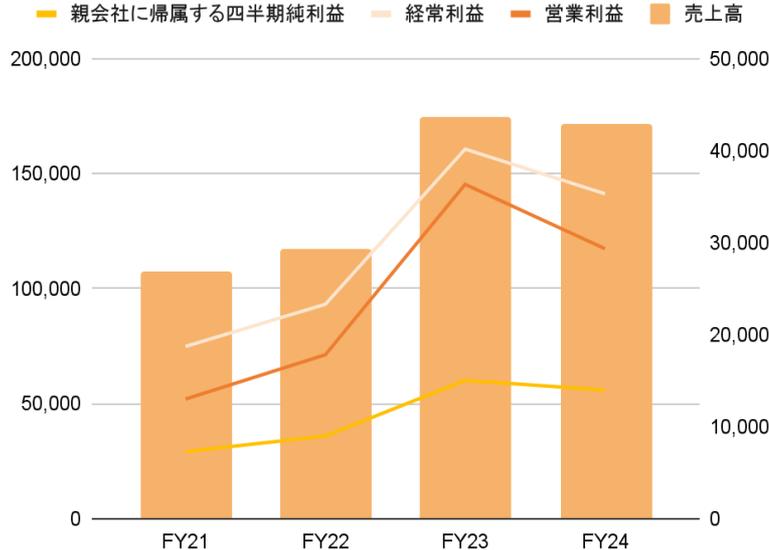
※FY=会計年度：FY24は2023年4月～2024年3月の期間

※百万円未満を切り捨てて表示しております。

- 売上高 1,713億4千5百万円（前期比1.7%減）
- 営業利益 293億4千2百万円（前期比19.3%減）
- 経常利益 353億1千7百万円（前期比12.1%減）
- 親会社株主に帰属する当期純利益 139億7千1百万円（前期比7.0%減）

⇒売上高、営業利益、経常利益、当期純利益は
2004年以降で過去最高であるFY23に次ぐ成績

売上高



(百万円)

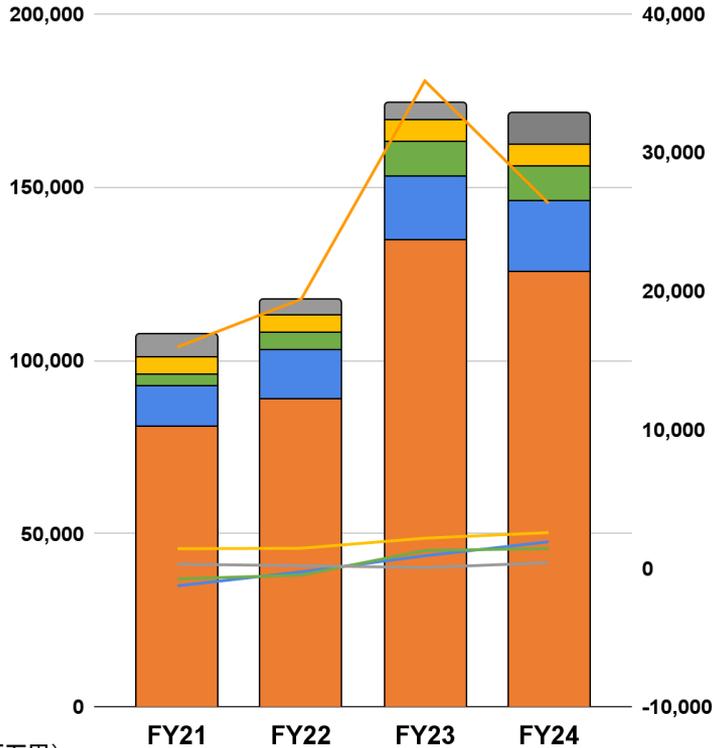
利益

<分析>

- マルチユース展開（商品販売、版權販売、放送・配信権許諾販売、海外販売等）が好稼働
- 映画『THE FIRST SLAM DUNK』（2022年12月3日公開）が前期に引き続き好稼働
- 『劇場版アイドリッシュセブン LIVE 4bit BEYOND THE PERIOD』『翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～』『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』『映画プリキュアオールスターズ F』がヒット

2024年3月期 セグメント別分析 (連結) 【全体】

売上高



利益

セグメント	サブセグメント	FY23	FY24	増減	比較増減	サブセグメント割合
映像関連事業	映画	24,193	9,860	▲14,332	▲59.2%	7.8%
	ドラマ	10,946	10,556	▲389	▲3.6%	8.4%
	コンテンツ	82,020	84,156	2,136	2.6%	66.8%
	その他	18,019	21,405	3,386	18.8%	17.0%
	売上高合計	135,179	125,980	▲9,199	▲6.8%	100%
	利益合計	35,167	26,333	▲8,834	▲25.1%	
興行関連事業	売上高合計	18,449	20,174	1,724	9.3%	100%
	利益合計	900	1,907	1,007	112.0%	
催事関連事業	催事	8,201	8,301	99	1.2%	82.3%
	映画村	1,813	1,783	▲29	▲1.7%	17.7%
	売上高合計	10,015	10,085	70	0.7%	
	利益合計	1,276	1,422	146	11.4%	
観光不動産関連事業	不動産賃貸	4,310	4,386	76	1.8%	67.5%
	ホテル	1,657	2,107	450	27.2%	32.5%
	売上高合計	5,967	6,494	527	8.8%	100%
	利益合計	2,168	2,569	400	18.5%	
建築内装関連事業	売上高合計	4,746	8,610	3,864	81.4%	100%
	利益合計	48	397	349	723.9%	
売上高合計		174,358	171,345	▲3,013	▲1.7%	
利益調整額		▲3,222	▲3,288	▲66		
利益合計		36,339	29,342	▲6,996	▲19.3%	

※百万円未満を切り捨てて表示しております。

(百万円)

2024年3月期 セグメント別分析 (連結) 【映像関連事業】

(百万円)		FY23	FY24	増減比率	
映像関連事業	売上高	135,179	125,980	▲9,199	▲6.8%
	利益	35,167	26,333	▲8,834	▲25.1%

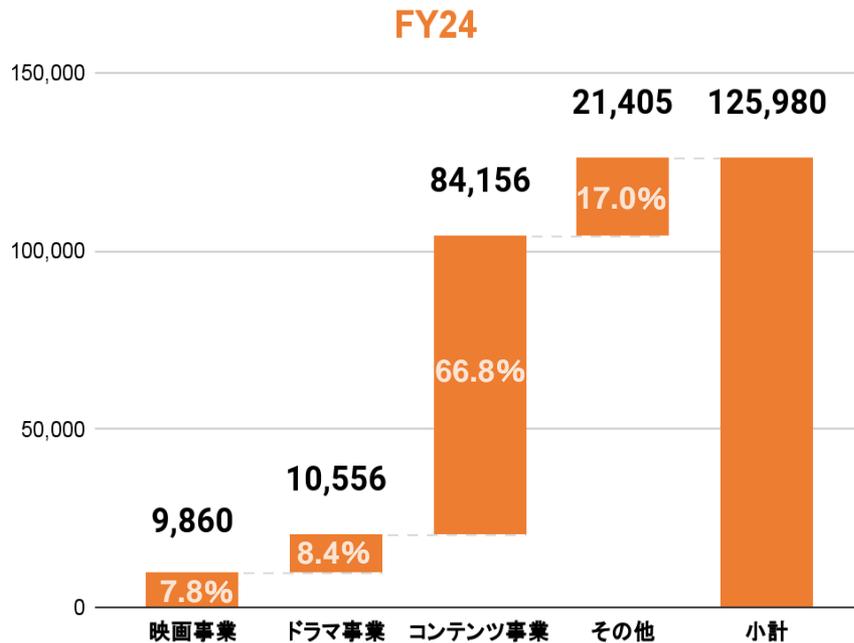
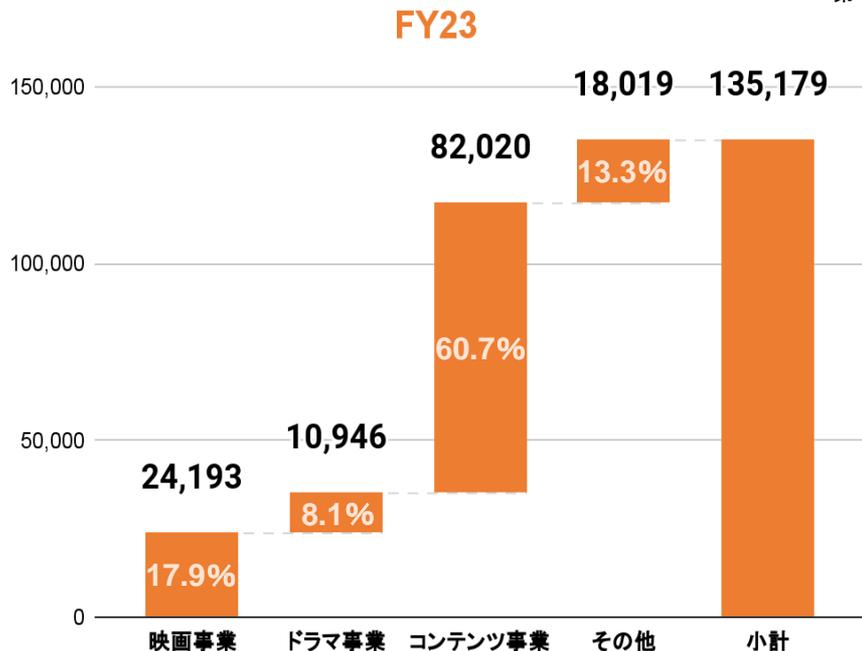
●コンテンツ事業 売上高841億5千6百万円（前期比2.6%増）
アニメーション作品の海外版權収入や国内映像配信のほか映画『THE FIRST SLAM DUNK』のビデオグラム販売が好調

●その他事業 売上高214億5百万円（前期比18.8%増）
『ワンピース』『プリキュア』シリーズ等のアニメーション作品の商品販売収入やイベント収入が好調

●映画事業 売上高98億6千万円（前期比59.2%減）
大ヒット作が複数公開された前期の反動減

●第1四半期に公開した『聖闘士星矢 The Beginning』の棚卸資産評価損を計上

【サブセグメント別売上高】



サブセグメント

【映画】 売上高9,860百万円 (前期比59.2%減)

- 提携製作作品等40本を配給
- 『劇場版アイドルリッシュセブン LIVE 4bit BEYONDTHE PERIOD』『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』『翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～』『Gメン』『映画プリキュアオールスターズF』等がヒット
- 映画『THE FIRST SLAM DUNK』（2022年12月3日公開/前連結会計年度における公開作品）が引き続き好稼働



「映適」 (日本映画制作適正化機構) に関して

「映適」の認定制度が2023年4月に開始され、認定第1号、第2号として当社製作作品の『映画「仮面ライダーギーツ 4人のエースと黒狐」』『映画「王様戦隊キングオージャー アドベンチャー・ヘブン」』が認定されました。

当社では企画段階から「映適」のガイドラインを守る前提で計画的に準備を進めスタッフ全員が安心して快適に働ける制作環境の改善に努めるとともに予算管理についても適切に行っています。

詳細はこちら：<https://eiteki.org/>



映画企画製作力の強化

- 年間映画ラインナップを計画的に編成する取り組みのほか、「チャレンジプロジェクト」や芸術職採用による新しい才能の発掘、また京都撮影所製作部ドラマ・企画営業ユニットに脚本開発チームを設ける(P16)など企画製作力の強化に努めています。
- 海外展開を見据えた企画を創出できるプロデューサーを育成するためのトレーニング(P17)を実施し、海外の企画マーケットへの参加など、グローバルを意識した企画力の強化も行いました。

月間興行収入

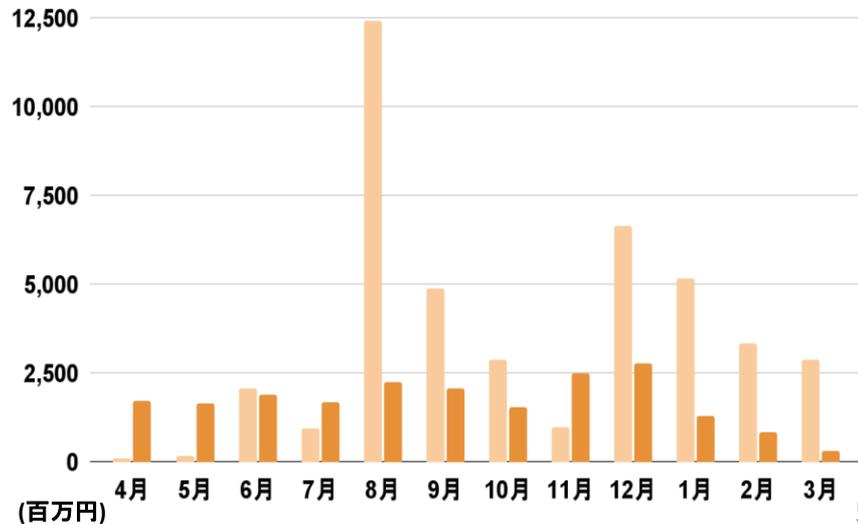
(億円)	FY23	FY24	前年度比	FY24 月別の主な稼働作品
4月	0.8	17.1	2030.5%	映画『THE FIRST SLAM DUNK』 『シン・仮面ライダー』 『聖闘士星矢 The Beginning』
5月	1.6	16.5	979.6%	映画『THE FIRST SLAM DUNK』 『劇場版アイドリッシュセブン LIVE 4bit BEYOND THE PERIOD』 『シン・仮面ライダー』 『おとななじみ』
6月	20.6	18.8	91.1%	『劇場版アイドリッシュセブン LIVE 5bit BEYOND THE PERIOD』 映画『THE FIRST SLAM DUNK』 『劇場版『美少女戦士セーラームーンCosmos』 前編・後編』
7月	9.5	16.8	176.6%	『劇場版アイドリッシュセブン LIVE 6bit BEYOND THE PERIOD』 映画『THE FIRST SLAM DUNK』 『映画 仮面ライダーギーツ 4人のエースと黒狐』映画 王様戦隊キングオー ジャードベンチャー・ヘブン』
8月	124.3	22.5	18.2%	映画『THE FIRST SLAM DUNK』 『リボルバー・リリー』 『劇場版アイドリッシュセブン LIVE 6bit BEYOND THE PERIOD』 『Gメン』
9月	48.7	20.8	42.8%	『映画プリキュアオールスターズF』 『Gメン』 『禁じれた遊び』 『劇場版アイドリッシュセブン LIVE 7bit BEYOND THE PERIOD』
10月	28.8	15.5	54.0%	『映画プリキュアオールスターズF』 『BAD LANDS パッド・ランズ』 『ONE PIECE FILM RED』 (再上映) 『キリエのうた』
11月	9.8	25.0	255.0%	『翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～』 『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』 『法廷遊戯』 『ONE PIECE FILM RED』 (再上映)
12月	66.4	27.9	42.0%	『翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～』 『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』 『仮面ライダー THE WINTER MOVIE ガッチャード&ギーツ 最強ケミー★ガッ チャ大作戦』
1月	51.8	13.0	25.3%	『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』 『翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～』 『仮面ライダー THE WINTER MOVIE』 『THE FIRST SLAM DUNK』
2月	33.3	8.2	24.8%	『身代わり忠臣蔵』 『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』 『映画プリキュアオールスターズF』 (再上映) 『翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～』
3月	28.7	3.2	11.2%	『映画おしりたんてい さらば愛しき相棒 (おしり) よ』 『身代わり忠臣蔵』 『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』
合計	424.3	205.3	48.3%	

FY24の主な稼働作品名	公開日	FY24興収(億円)
映画『THE FIRST SLAM DUNK』	2022年 12月3日	33.2 (興行全期間：159.5)
『劇場版アイドリッシュセブン LIVE 4bit BEYOND THE PERIOD』	5月20日	29.6
『映画 プリキュアオールスターズF』	9月15日	15.3
『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』	11月17日	27.8
『翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～』	11月23日	23.8

※期間は2023/4/1-2024/3/31に限ります。

月間興行収入 (グラフ)

■ FY23 ■ FY24



サブセグメント

【ドラマ】売上高10,556百万円（前期比3.6%減）

2024年1月～3月放送作品

2023年9月3日～ 『仮面ライダーガッチャード』（テレビ朝日系）

2023年10月18日～ 『相棒season22』（テレビ朝日系）

2024年1月18日～ 『大奥』（フジテレビ系）

2024年3月3日～ 『爆上戦隊ブンブンジャー』（テレビ朝日系）



●年間テレビドラマ製作本数:計363本

- ・60分作品 49本『相棒』『科捜研の女』『特捜9』『刑事7人』他
- ・30分作品 295本『仮面ライダーギーツ』『ひろがるスカイ！プリキュア』
- ・ワイド・スペシャル作品 19本「松本清張ドラマプレミアム『顔』・『ガラスの城』」他



●キャラクターの商品化権営業

- ・『王様戦隊キングオージャー』『仮面ライダーギーツ』『仮面ライダーガッチャード』等



ドラマ製作力の強化

●大型スペシャルの製作

『霊験お初～震える岩～』『ブラック・ジャック』『松本清張・ドラマプレミアム『顔』・『ガラスの城』』などの大型スペシャルを企画しました。

●配信ドラマの製作

Amazonプライムビデオ『【推しの子】』（製作中）をはじめ、TELASAやFOD向けのドラマを製作いたしました。



特撮作品の企画製作・商品化の強化

●2次利用展開を意識した製作体制

企画段階から2次利用展開等のビジネススキームを意識して製作体制を見直しています。

●幼児をターゲットにしたYouTubeチャンネル

2024年2月より『せんたいライダーKidsチャンネル』『ブンブンジャーちゃんねる【スーパー戦隊シリーズ公式】』の2チャンネルを開設しました。幼児のコンテンツ視聴環境がテレビだけでなく配信にも広がっていることを受け、幼児に特化したコンテンツを配信しています。



●新しい層へのアプローチ

スマートフォン向け新作アプリゲーム『ライドカメنز』を2024年初夏リリース予定です。従来の『仮面ライダー』シリーズのファン層ではなかった層へのリーチを目指しています。



詳細はこちら：<https://www.ride-kamens.com/>

サブセグメント

【コンテンツ】 売上高84,156百万円 (前期比2.6%増)

- ・劇場用映画等の地上波・BS・CS放映権及びビデオ化権の販売に加え、配信サービスに映像ソフトを供給
- ・旧作テレビ時代劇やテレビ映画「相棒」シリーズ等の放映権販売、Amazonプライム・ビデオをはじめとした配信事業者向けの配信権販売が好調
- ・アニメ関連では、映画『THE FIRST SLAM DUNK』の海外上映権販売や「ワンピース」の海外配信権販売が好調に稼働

【国内配信】

- ・『レジェンド&バタフライ』『シン・仮面ライダー』『リボルバー・リリー』等の大型作品の配信権販売が牽引
- ・「東映特撮ファンクラブ」(オウンドメディア)ではオリジナル作品を多数配信したことにより、加入者が増加

【国内番組販売】

- ・『相棒』『科捜研の女』『遺留捜査』『あぶない刑事』『おジャ魔女どれみ』『デジモンアドベンチャー』等シリーズ作が稼働

【国内Blu-ray/DVD】

- ・業界全体は縮小傾向
- ・DVD・Blu-ray 合わせて251作品を販売
- ・映画『THE FIRST SLAM DUNK』『ONE PIECE FILM RED』という大ヒット作が大きく寄与し、前期比で約1.4倍の売上高

【海外】

- ・実写劇場映画 『レジェンド&バタフライ』『シン・仮面ライダー』等の海外向け配信権販売が牽引
- ・実写テレビ映画『暴太郎戦隊ドンブラザーズ』などテレビ映画のアジア向け番組販売や商品化権販売が好調
- ・輸入販売 『ボヘミアン・ラプソディ』『レヴェナント：蘇えりし者』など外国映画のテレビ放映権が好調に推移
- ・アニメ 映画『THE FIRST SLAM DUNK』の海外上映権販売や『ワンピース』の海外配信権販売が好調

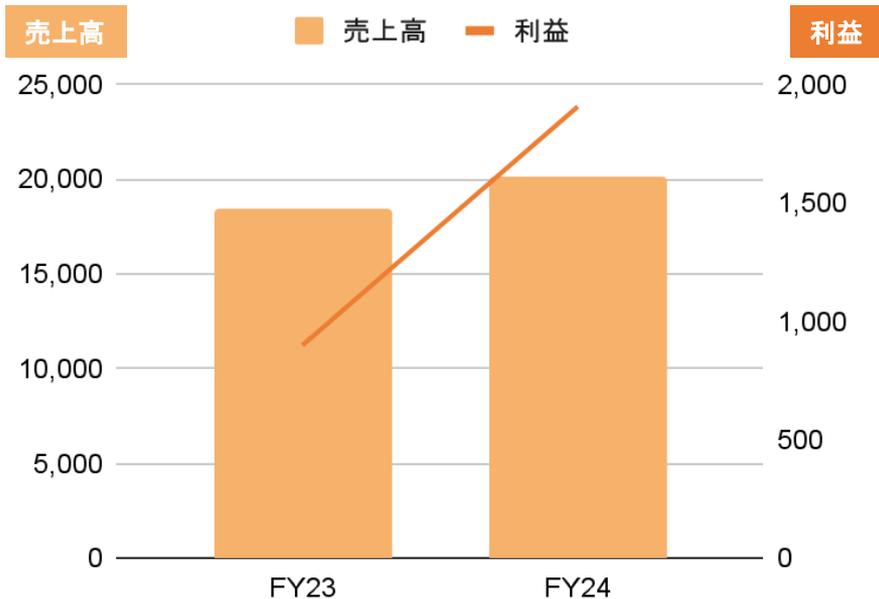
【その他】 売上高21,405百万円 (前期比18.8%増)

- ・映画『THE FIRST SLAM DUNK』の商品販売やインバウンド需要による「麦わらストア」の稼働が好調



2024年3月期 セグメント別分析 (連結) 【興行関連事業】

(百万円)		FY23	FY24	増減比率	
興行関連事業	売上高	18,449	20,174	1,724	9.3%
	利益	900	1,907	1,007	112.0%



(百万円)

- 株式会社ティ・ジョイ運営のシネマコンプレックスが好調に稼働
- 220スクリーン体制（東映横直営館2スクリーン含む）で展開 ※当連結会計年度末において
- 興行状況はコロナ禍から本格的に回復
- 直営劇場：上映作品のうち映画『THE FIRST SLAM DUNK』『劇場版アイドリッシュセブンLIVE 4bit BEYOND THE PERIOD』等が好調に稼働
- ティ・ジョイ：第1四半期での『ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー』『名探偵コナン 黒鉄の魚影』の大ヒットが業績を牽引。またコスト管理の強化により販管費の増加を抑制
- アニメ作品のヒット傾向が強く、実写作品や洋画作品の回復が待たれる状況が続く

【新規開業と差別化戦略】

●T・ジョイ エミテラス所沢 新規開業

2024年9月に開業する「エミテラス所沢」内に「T・ジョイ エミテラス所沢」（12スクリーン）がオープン予定です。最新鋭の上映設備「IMAX®レーザー」の他に、3面マルチプロジェクション・映画上映システム「ScreenX」や立体音響技術「Dolby Atmos®」を備え、多彩なエンタテインメントを圧倒的臨場感で体験できる劇場となります。

※株式会社リアルティソリューションズと株式会社松竹マルチプレックスシアターズとの共同運営

詳細はこちら：<https://tjoy.co.jp/news/info/528>



「ScreenX」

●T・ジョイ 京都に「ScreenX」を導入

新たな上映方式として、ティ・ジョイ運営劇場では初となる「ScreenX」をT・ジョイ京都に6月21日より導入致します。同じシアターに「Dolby Atmos®」を導入し、これまでにない映画体験が可能となります。

詳細はこちら：<https://tjoy.co.jp/news/info/525>

今後も新規開業により事業の拡大を、またラージフォーマット等の積極的な導入により、周辺劇場との差別化を図り、劇場の付加価値向上を目指してまいります。

(百万円)		FY23	FY24	増減比率	
催事関連事業	売上高	10,015	10,085	70	0.7%
	利益	1,276	1,422	146	11.4%

●催事事業

『北斗の拳 40周年大原画展 ～愛をとりもどせ!!～』『暴太郎戦隊ドンブラザーズファイナルライブツアー2023』をはじめ、様々なジャンルの展示型イベント、ライブイベントや舞台演劇、キャラクターショーなど各種イベントを提供

●商品事業

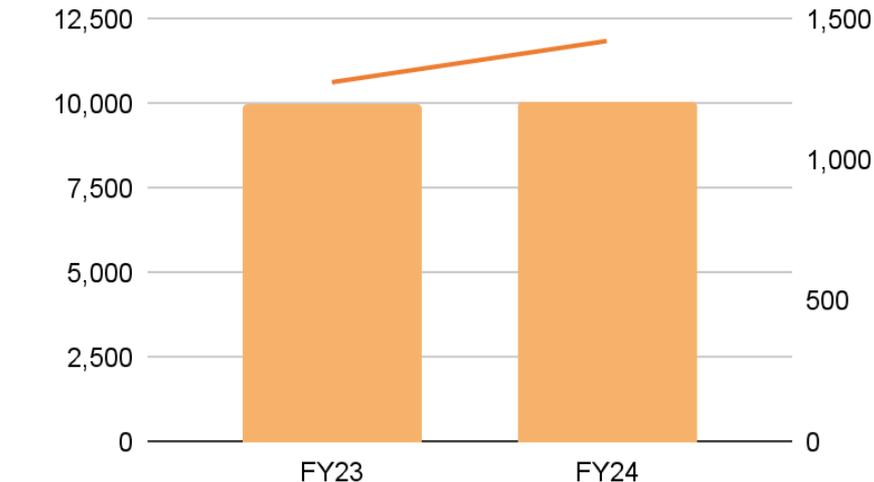
映画関連商品の販売やオンラインサイトによるイベント商品の通信販売、仮面ライダーストア等でのキャラクターグッズの販売

●東映太秦映画村は堅調な推移

売上高

売上高 利益

利益



(百万円)

サブセグメント【催事】

売上高8,301百万円 (前期比1.2%増)

●イベント事業

- ・『暴太郎戦隊ドンブラザーズ ファイナルライブツアー2023』『仮面ライダーギーツ ファイナルステージ』がそれぞれ特撮シリーズ関連のライブにおいて過去最高の売上高と利益を記録
- ・『超英雄祭2024』『生誕50周年記念 THE仮面ライダー展』等が利益に貢献

●商品事業

『シン・仮面ライダー』映画『THE FIRST SLAM DUNK』『ONE PIECE FILM RED再上映』『プリキュアオールスターズF』等の商品が利益貢献

【商品事業収益の拡大】

通販事業及びストアの全国展開により商品事業の収益を拡大

●通販事業

劇場商品からイベントまで幅広く拡大しました。

●仮面ライダーストア

東京に続き2月に大阪で2号店をオープン。合わせて全国でポップアップストアを展開しました。東京店の売上高は前期比124%で推移しています。

また「スーパー戦隊」シリーズの

ポップアップストアも展開を開始しました。

●FY25

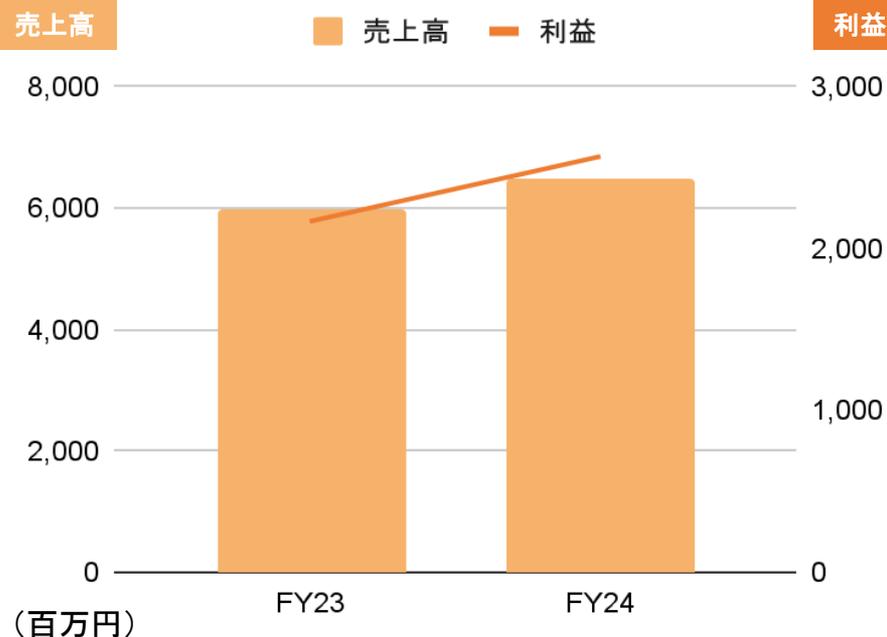
TV放送25周年記念イベント『ONE PIECE EMOTION』などを東映アニメーションと共同開催し商品制作も充実させる予定です。

サブセグメント【東映太秦映画村】

売上高1,783百万円 (前期比1.7%減)



（百万円）		FY23	FY24	増減比率	
観光不動産事業	売上高	5,967	6,494	527	8.8%
	利益	2,168	2,569	400	18.5%



サブセグメント

【不動産賃貸】 売上高4,386百万円（前期比1.8%増）

- ・「渋谷東映プラザ」「オズスタジオシティ」「新宿三丁目イーストビル」等の首都圏の賃貸施設が稼働
- ・興行成績好調により、テナントであるシネマコンプレックスの歩合賃料が増加
- ・首都圏の不動産は総じて堅調で、特に賃貸マンションは好稼働
- ・地方圏では厳しい状況が続く中、仙台東映プラザは新規出店により堅調。

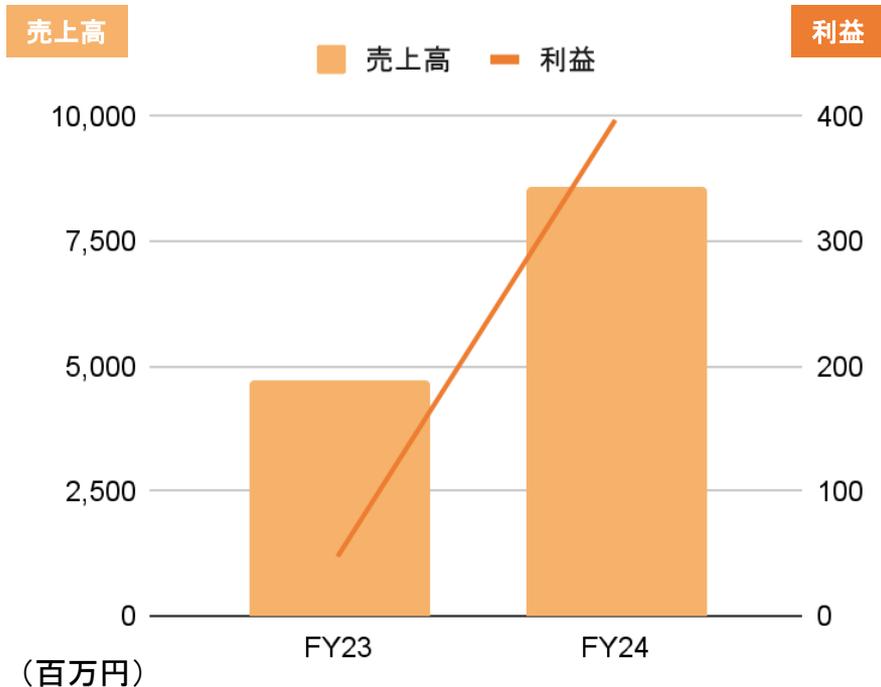
サブセグメント

【ホテル】 売上高2,107百万円（前期比27.2%増）

- ・新型コロナウイルス感染症による行動制限の撤廃により国内の旅行需要が急回復
- ・円安効果で訪日外国人観光客数が増加し過去最高収益（※2013年4月以降）
- ・物価高騰による原価が増加するも価格転嫁により吸収
- ・労働力確保のため、DXによるオペレーションの効率化を図る

2024年3月期 セグメント別分析 (連結) 【建築内装事業】

(百万円)		FY23	FY24	増減比率	
建築内装事業	売上高	4,746	8,610	3,864	81.4%
	利益	48	397	349	723.9%



- ・株式会社東映建工がシネマコンプレックスの新規工事や改装工事をはじめ老健施設、医療施設、障がい者雇用支援施設、マンション建築等の工事を受注

- ・映像関連施設では、「IMAX」「ScreenX」などハイスペックシアターの受注が増加

- ・建設資材・エネルギー価格の高止まりや労務費の上昇等による影響があるものの、確実な見積りと適正な工期の設定より利益を確保

2025年3月期の予想

(百万円)	2021年3月期実績	2022年3月期実績	2023年3月期実績	2024年3月期実績	2025年3月期予想	増減率
売上高	107,648	117,539	174,358	171,345	156,000	▲9.0%
営業利益	12,997	17,810	36,339	29,342	24,400	▲16.8%
経常利益	18,716	23,303	40,172	35,317	27,700	▲21.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,284	8,977	15,025	13,971	10,800	▲22.7%

(%表示は対前期増減率)

- 興行収入は前期比で減少を見込むも、全般として引続き好調な事業環境を見込む
- 新たな撮影技術への投資や人的投資、「持続的な成長を支える経営基盤強化」のための不動産再開発等、長期的に安定した経営のための投資も積極的に実施
- ヒット作を狙うとともにマルチユース展開で、収益の拡大を目指す

參考資料

東映グループのビジネスモデル

① 自ら企画製作し、

多様で魅力的な作品群を企画

- ・ 劇場映画 4,400作品以上
- ・ テレビ映画 39,000話以上
- ・ 配信映画 600話以上

オリジナル

原作もの



映像製作インフラ

- ・ 撮影からポストプロダクションまでのワンストップ体制

撮影



映像研究



ポストプロ



アニメ



② マルチユース展開

- ・ 劇場からテレビ、ネット配信までマルチチャンネルをカバー

配給

興行

テレビ放送

配信

DVD Blu-ray

商品化

書籍化

ゲーム化

イベント化

舞台化

海外展開



ティ・ジョイ



東映
オンラインストア



東映特撮
YouTube Official

③ 作品をフランチャイズ化することで接点を増加

IPが生み出す収益の最大化を目指す

収益 最大化

IP認知度向上
ファン化等

利益の積重ね

企画

製作

マルチ
ユース

利益の積重ね

企画

製作

マルチ
ユース

IP

接点
増加

主な取り組み

- 不動産関連
 - ・ 東映会館（銀座）再開発
 - ・ 東映太秦映画村（京都）再開発
- 映像事業強化
 - ・ 映画編成部マーケティング室の設置
 - ・ 京都撮影所製作部ドラマ・企画営業ユニット（脚本開発チーム）の設置
- 海外展開
 - ・ 国際営業部企画戦略室の設置
 - ・ 海外展開に向けたプロデューサートレーニングの実施
 - ・ 世界初「ドラゴンボール」テーマパーク建設へ
 - ・ 中国版「百円の恋」大ヒット続報
- D&I
 - ・ D&Iプロジェクト始動「東映BRAVE宣言」
- 社会貢献
 - ・ 『悪魔が来りて笛を吹く』（1954年）デジタル修復
 - ・ 令和6年能登半島地震 チャリティー無料配信『マジンガーZ対暗黒大將軍』他

東映会館（銀座）再開発

当社は、2024年5月15日開催の取締役会において、東映会館（東京都中央区銀座3丁目）を老朽化に伴い建替え、再開発することを決定いたしました。

【再開発概要】

■所在地
東京都中央区銀座3丁目2番17号

■敷地面積
1,100.81㎡（332.99坪）

■開発内容
ホテル・店舗（予定）

■開発期間
2025年～2029年（予定）

■丸の内TOEI①・丸の内TOEI②（直営劇場）の営業
2025年夏頃、本社移転に伴い、映画館の営業を終了



当グループにおける興行事業は引き続き株式会社ティ・ジョイによるシネマコンプレックス（218スクリーン※2024年5月15日現在）で営業いたします。

東映太秦映画村（京都）再開発

東映太秦映画村は50周年を迎えるにあたり、全面リニューアルを実施します。社会状況や消費者ニーズの変化などに対応しながら当社ならではの美術セットや衣装、所属俳優など時代劇制作の資産・ノウハウを活かした再開発を実施します。

【開発概要】

■開発期間
・2024年4月 第1期 着工
・2025年秋 第1期完了/オープン
・2028年 フルリニューアル完了

■総事業費
120億円

■ターゲット
・ファミリー層
・20代～30代 女性/カップル
・インバウンド

■改装のポイント
・江戸時代の京都へ没入体験できる施設へ（江戸時代をテーマにした温浴施設や扮装したキャストによる実店舗運営、ゲスト参加型のグリーティング/ショーほか）
・「太秦江戸酒場」を通常営業し、京都における「ナイトタイムエコノミー」を拡大



中長期ビジョンTOEI NEW WAVE 2033
重点施策④ 持続的なチャレンジと成長を支える経営基盤強化
①事業基盤強化に向けた投資戦略

2023年4月1日
映画編成部マーケティング室の設置

より魅力的な作品を企画・編成するために2023年4月1日より、映画編成部マーケティング室を設置いたしました。

収集したデータをもとにターゲット層を明確化し、より確実にヒットする映画企画を生み出すための基盤を固めていきます。



2024年4月1日
京都撮影所製作部ドラマ・企画営業ユニット
(脚本開発チーム)の設置

2024年4月1日より、京都撮影所製作部ドラマ・企画営業ユニットに脚本開発チームを設置いたしました。

国内のシナリオ賞の受賞者など、即戦力人材を社内登用し、企画書・プロット作成、脚本執筆またそれに付随する業務全般を行ないます。



中長期ビジョンTOEI NEW WAVE 2033
重点施策① 映像事業収益の最大化
①企画製作力の強化

国際営業部企画戦略室の設置

映像作品の更なる海外展開を目指し、2024年4月1日より、国際営業部企画戦略室を設置しました。

海外展開を意識した作品の企画開発のほか、東映作品の海外リメイクや国際共同製作など、海外パートナーとの協業を積極的に進めていきます。

世界中で愛される「ものがたり」の制作に取り組んでいきます。



「アムシー国際アニメーション映画祭」の様子

海外展開に向けた プロデューサートレーニングの実施

成長戦略とする「グローバル展開」の実現に向けて、プロデューサー向け海外展開トレーニングを実施しました。

国際営業部による「海外マーケットやビジネス」の講義をはじめ、一部の選抜されたプロデューサーは、「グローバルプロデューサー育成プログラム」を受講しました。プログラムでは、国際共同製作を進めるにあたっての必要なスキルを学び、海外での企画ピッチングや企画書作成に活かすノウハウの習得を目指しました。

今後も定期的にトレーニングを行い、海外で戦えるプロデューサーの育成に積極的に取り組みます。



トレーニングの様子

中長期ビジョンTOEI NEW WAVE 2033
重点施策 2 グローバル展開へのチャレンジ
3 映像事業強化のための人的投資の拡大

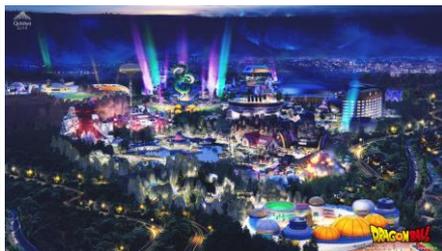
東映アニメーションは、サウジアラビアの公的投資基金が全額出資するQiddiya (キディヤ) Investment Company (以下「QIC」と)と、ドラゴンボールの世界が現実にあったらという夢を形にすべく、戦略的パートナーシップに関する契約を締結いたしました。締結を発表した調印式では、テーマパークに建設予定の「シェンロンコースター」を1/50スケールで再現したビッグジオラマが披露されました。



写真右：東映アニメーション代表取締役社長 高木勝裕
写真左：QIC マネージングディレクター アブドゥラー・アルタウード



- ドラゴンボールテーマパークは500,000㎡を超える広さを誇り、7つのエリアで構成された敷地にはカメハウスをはじめ作品に登場する建物が再現されます。
- アトラクションは合計で30以上にもおよび、また、ランドマークとしてパーク中央に全高約70mの「神龍（シェンロン）」が出現。その内部を通り抜ける大型ジェットコースターの設置が予定されています。
- ドラゴンボールテーマパークが建設される「Qiddiya City (キディヤシティ)」はQICが初めて開発する都市であり、首都・リヤドから車で約40分に位置する地区で開発が進められています。“遊びに特化した都市”として、エンターテインメント、スポーツ、文化の中心地となることが期待されてます。



詳細はこちら：https://dragon-ball-official.com/news/01_2533.html

中長期ビジョンTOEI NEW WAVE 2033
重点施策② グローバル展開へのチャレンジ

2014年12月20日に公開され、日本アカデミー賞最優秀主演女優賞など国内外合わせ通算21冠の映画賞を受賞、異例のロングランヒットを放った『百円の恋』（2014年公開/主演：安藤サクラ／脚本：足立紳／監督：武正晴／製作：東映ビデオ）が中国にて『热辣滚烫（読み：ルーラーグンタン）』（主演：ジャー・リン）のタイトルでリメイクされ、2024年2月10日公開後、2024年春節期（旧正月/2月10～18日）のナンバーワンヒット作として快進撃を続け、**2024年春节興行1位**を記録いたしました。



写真左：2月14日上海の映画館で行われた舞台挨拶（最前列右から4人目がジャー・リン）
写真右：湖北省の舞台挨拶でのジャー・リン

そして、2月17日には中国での興収が27.24億元（約544.8億円）を突破し、**中国でリメイクされた日本映画における最高興行収入記録を達成**しました！過去、中国でリメイクされた日本映画の最大ヒット作『ザ・マジックアワー』（興行収入26.27億元：約533.8億円）の記録を、公開8日目で早くも塗り替えました。4月10日時点で**興行収入34.6億元（約725.9億円）**に達し、**中国歴代興行第14位**を記録。動員数も**7,200万人**を超える大ヒットとなりました。さらに現在までに**アジア各国をはじめ世界10か国以上で公開**され、イタリアのウディネ極東映画祭のオープニング作品にも選ばれました。

引き続きリメイク権の販売等により海外展開を図ってまいります。

当社は、昨年度よりD&I（ダイバーシティ&インクルージョン）推進に取り組んでおります。

多様な経験を持った従業員で構成されたプロジェクトメンバーが、ボトムアップで活動しております。全従業員を対象としたアンケート調査、現状の社内における課題の可視化、経営層との意見交換などを行い、試行錯誤を重ねながら東映が進むべきダイバーシティの方向性を検討してまいりました。

2024年3月には、推進スローガン「東映BRAVE宣言」を発表いたしました。変わる／変わらない勇気、そして相手を受け入れ、新しいことを受け入れるという勇気を持ってD&Iを推進していこうという想いを込めています。サブタイトルでは、D&I推進のスタートラインに立った現在を“序章”とし、新しいムーブメントを起こしたいという想いを表現しています。

プロジェクトメンバーは毎年変更し、限られた視点に留まることなく活動の輪を広げていきます。

また、管理職の意識改革のため、役員を含めた部長以上を対象にダイバーシティマネジメント研修を実施しています。

多様な人財をまとめ、チームの協働と目標達成に導くために必要なマネジメントの資質やスキル、組織パフォーマンスへの影響など、D&Iに関わるマネジメント能力を継続的に身に付けていきます。

引き続き、従業員全員が互いを尊重することでイノベーションを創出する企業を目指します。

ダイバーシティ インクルージョン

D&Iプロジェクト スローガン決定！

東映 BRAVE 宣言

「ダイバーシティの波」起こせ！

Be Respectful And Value Empathy

リスペクト 尊重
する心を持つ

エンパシー 共感
を大切にしよう

BRAVE 勇気

多様なメンバーがもっと活躍できる△を目指して
D&Iプロジェクト1期生一同

中長期ビジョンTOEI NEW WAVE 2033

- 重点施策
- ③ 映像事業強化のための人的投資の拡大
 - ④ 持続的なチャレンジと成長を支える経営基盤強化
 - ③ サステナビリティへの取り組み

名探偵 金田一耕助・片岡千恵蔵主演
『悪魔が来りて笛を吹く』（1954年）デジタル修復

戦前から戦後にかけて活躍した時代劇スター片岡千恵蔵が、戦慄巨編映画として挑んだ『悪魔が来りて笛を吹く』（1954年）。この名作のフィルムをこの度発見し、デジタルリマスターで蘇えさせます。



本作の原版は消失し長らくロストフィルムとなっていました。2023年、二松学舎大学・山口直孝教授が研究の中で本作の16mmフィルムを発見。2024年、寄贈という形で70年振りに当社フィルムが戻ってきました。

寄贈いただいた16mmフィルムは長い年月の間にピネギーシンドロームという劣化が進んでおり、カーリングと呼ばれるフィルムの変形とワカメのような歪み、また欠損、傷も多く、一刻も早いデジタル化が望まれる状況にありました。



そこで私たちは、東映ラボ・テック株式会社の専門スタッフの手作業と最新修復技術を駆使し、デジタルデータとして映像を蘇らせるプロジェクトを発足させました。音声と共に再現させるべく、現在鋭意作業中です。

70年前の名作を再び皆様へ大画面でご提供させていただき、貴重な映像文化を後世に伝えていきたいと思っております。

令和6年能登半島地震 チャリティー無料配信
『マジンガーZ対暗黒大將軍』他
永井豪原作の3作を配信

当社が運営する公式YouTubeチャンネル【東映シアターオンライン】（チャンネル登録者：40万人）では、令和6年能登半島地震の被災地復興のため、石川県輪島市出身の永井豪が原作の映画3作品を期間限定で無料配信し、経費を除く収益（広告収入）の全額を義援金として日本赤十字社に寄付いたしました。



- ①『マジンガーZ対暗黒大將軍』（1974年）2024/2/22(木)～2024/3/7(木)
- ②『グレートマジンガー対ゲッターロボ』（1975年）2024/2/29(木)～2024/3/14(木)
- ③『UFOロボ グレンダイザー対グレートマジンガー』（1976年）2024/3/7(木)～2024/3/21(木)

また東映アニメーション株式会社では、『劇場版 マジンガーZ / INFINITY』を同社YouTube「東映アニメーションミュージアムチャンネル」にて2024/1/26（金）20：00～2週間の間チャリティー配信し、経費を除く収益の全額（広告収入）を輪島市に寄付いたしました。

復興が進み、1日も早く被害に遭われた方々に平和な日々が戻ることを心からお祈り申し上げます。

中長期ビジョンTOEI NEW WAVE 2033
重点施策④ 持続的なチャレンジと成長を支える経営基盤強化
③サステナビリティへの取り組み

中長期VISION「TOEI NEW WAVE 2033」全体像

To the World , To the Future

－「ものがたり」で世界と未来を彩る会社へ－

経営ビジョン2033

2026年で目指す姿

実写・アニメともにグローバルコンテンツの創造発信基盤を確立する

東映グループの強み

企画製作力

：

マルチユース展開

成長戦略

実写、アニメ映像事業を強化・拡大し、グローバル展開を加速する

重点施策

1 映像事業収益の最大化

1. 企画製作力の強化
2. コンテンツのマルチユース促進
3. IPライフサイクルの長期化

2 グローバル展開へのチャレンジ

1. グローバルメジャーと共同開発・世界展開
2. 現地企業とローカライズオリジナル作品の共同制作

3 映像事業強化のための人的投資の拡大

4 持続的なチャレンジと成長を支える経営基盤強化

- ① 事業基盤強化に向けた投資戦略
- ② コーポレートガバナンスの強化
- ③ サステナビリティへの取り組み
- ④ 資本・財務戦略

映像作品ラインナップ

【映画】

- 2024年5月24日 『帰ってきたあぶない刑事』
- 2024年6月7日 『BELIEVE 日本バスケットを諦めなかった男たち』
- 2024年7月19日 『逃走中THE MOVIE』
- 2024年7月26日 『THE SUMMER MOVIE 2024／仮面ライダーガッチャード&爆上戦隊ブンブンジャー』
- 2024年9月13日 『わんだふるぷりきゅあ！ざ・むーびー！』
- 2025年1月17日 『室町無頼』
- 2025年3月7日 『35年目のラブレター』



【テレビ】

- 2023年9月3日～ 『仮面ライダーガッチャード』
- 2024年3月3日～ 『爆上戦隊ブンブンジャー』
- 2024年4月3日～ 『特捜9 season7』



【配信ドラマ・映画】

- 2024年冬 ドラマ 『【推しの子】』
Amazon Prime Videoにて世界独占配信
- 映画 『【推しの子】』 全国公開



【アニメーション】

- 2024年4月5日～ 『ガールズバンドクライ』
- 2024年秋～ 『ドラゴンボールDAIMA』



映像作品・催事等 ラインナップ

【配信】

- 2024年4月7日 『ギーツエクストラ 仮面ライダーゲイザー』
- 2024年5月5日 『仮面ライダー555殺人事件 解決編』
- 2024年5月12日 『仮面ライダーアウトサイダーズ e p.5 創世の女神と第三のシンギュラリティ』
- 2024年初夏 『特捜戦隊デカレンジャー with トンボオーガー』



【催事】

- 『民藝 MINGEI ー美は暮らしのなかにある』 2024年4月～ 東京、富山、愛知、福岡
- 『キース・ヘリング展 アートをストリートへ』 2024年4月～ 兵庫、福岡、愛知、静岡、茨城
- 『出版160周年記念 不思議の国のアリス展』 2024年4月～ 神奈川、大阪、愛知
- 『北斗の拳 40周年大原画展 ～愛をとりのもどせ!!～』 2024年7月～ 兵庫、福岡
- 『QuizKnockと巡る 江戸東京博物館展』 2024年7月～ 愛知、静岡、宮城



【ショー・舞台】

- 『仮面ライダー×スーパー戦隊 Wヒーロー春祭り・夏祭り 2024』 2024年4・8月 愛知、東京
- 『仮面ライダースーパーライブ2024』 2024年5月～ 鳥取、京都、石川、愛知、長野、奈良ほか
- 『わんだふるぷりきゅあ！ いっしょにあそぼ♪ わんだふるワールド』 2024年5月～ 大阪、東京
- 東映ムビ×ステ 舞台『邪魚隊／ジャッコタイ』 2024年5月～ 東京、大阪、愛知、石川
- 『東京リベンジャーズ 中華街ミッション ～伝説のパンダまんを探せ～』 2024年5月 神奈川



【商品】

- 仮面ライダーストアTOKYO/OSAKA



本資料について

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれていますが、実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承下さい。

また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問合せ
東映株式会社 経営戦略部広報室

TEL:03-3535-7564 MAIL : keisen_koho@toei.co.jp

担当：多田（オオタ）内藤 奥本 加藤

©2024「帰ってきた あぶない刑事」製作委員会 ©ABC-A・東映アニメーション ©2023映画ブリキユアオールスターズF製作委員会 ©映画「鬼太郎誕生ゲゲゲの謎」製作委員会 ©2023映画「翔んで埼玉」製作委員会 ©2023劇場版「ギーツ・キングオージャー」製作委員会 ©テレビ朝日・東映AG・東映 ©石森プロ・テレビ朝日・ADK EM・東映 ©フジテレビ ©東映 ©テレビ朝日・東映 ©2023石森プロ・テレビ朝日・ADK EM・東映 ©石森プロ・東映 ©BANDAI ©赤坂アカ×横槍メンゴ／集英社・2024映画【推しの子】製作委員会 ©2023「THE LEGEND & BUTTERFLY」製作委員会 ©石森プロ・東映/2023「シン・仮面ライダー」製作委員会 ©2023「リボルバー・リリー」フィルムパートナーズ ©I.T.PLANNING,INC. ©2022 THE FIRST SLAM DUNK Film Partners ©尾田栄一郎／2022「ワンピース」製作委員会 ©T・T・T ©バード・スタジオ／集英社・東映アニメーション ©New Classics Media Corporation ©2014東映ビデオ ©ダイナミック企画・東映アニメーション ©2024「BELIEVE」製作委員会 ©FIBA ©日本バスケットボール協会 ©2024フジテレビジョン東映FNS27社 ©2024映画「ガッチャード・ブンブンジャー」製作委員会 ©2025「室町無頼」製作委員会 ©2025「35年目のラブレター」製作委員会 ©東映アニメーション ©東映特撮ファンクラブ ©2022石森プロ・テレビ朝日・ADK EM・東映 Photo by ©Makoto Murata Keith Haring Artwork @Keith Haring Foundation © Macmillan Publishers International Limited.THE MACMILLAN ALICE™ ©武論尊・原哲夫／コアミックス 1983 ©石森プロ・テレビ朝日・ADK EM・東映AG・東映 ©2024 toei-movie-st ©和久井健・講談社／アニメ「東京リベンジャーズ」製作委員会